

令和4年8月20日

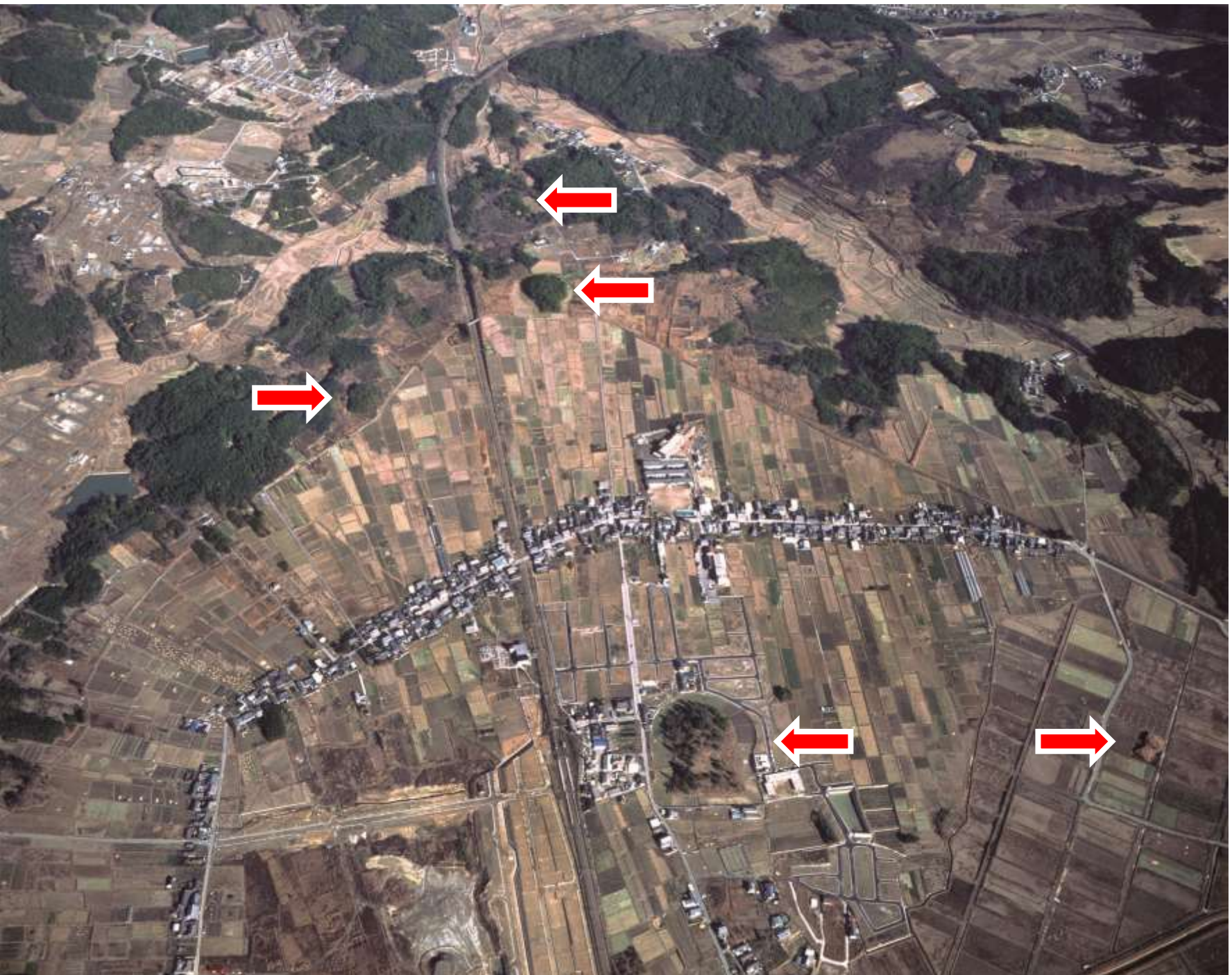
第41回三重県埋蔵文化財展「いにしえの名張」

関連講演会（第2回）

名張の古墳と
ヤマト王権・渡来人

三重県埋蔵文化財センター 高松雅文

美旗古墳群（古墳時代
中・後期の古墳群）



写真は名張市教育委員会提供

古墳時代は350年以上

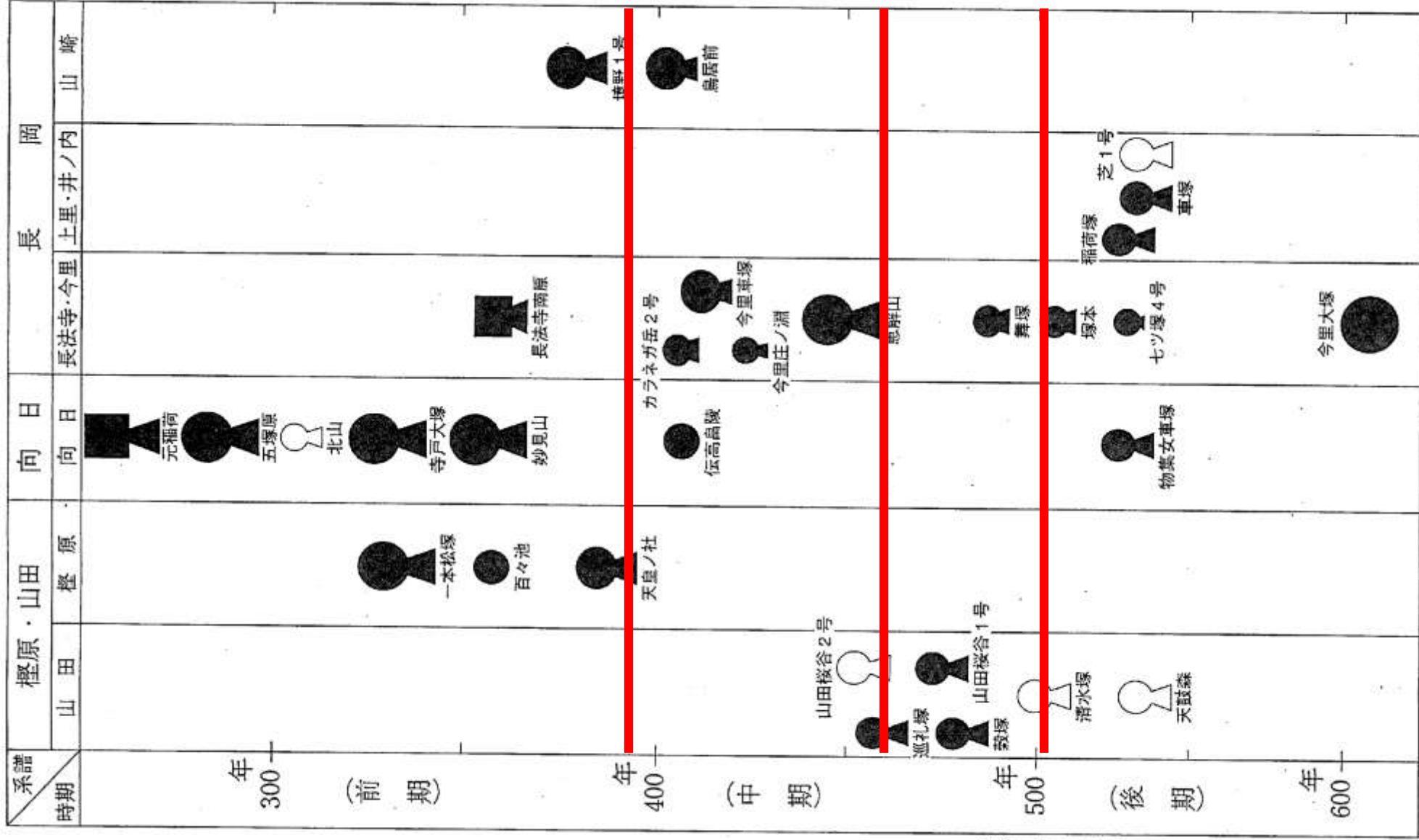
- ◆ 3世紀後半（**卑弥呼**が亡くなった頃）から7世紀（**聖徳太子**が活躍する頃）をさす
- ◆ 前期＝3世紀後半～4世紀
主な副葬品…三角縁神獣鏡など
- ◆ 中期＝5世紀
主な副葬品…鉄製の武器・武具、特に甲冑
- ◆ 後期＝6～7世紀
主な副葬品…馬具など

美旗古墳群が他の古墳群と違う点

- ◆ 5代続けて首長墳が築かれている
⇒各地の有力古墳群は、
おおむね3代で首長墳の築造が途切れる
- ◆ 古墳築造は、散財でもある
⇒権力・財力の再生産が必要

京都府長岡京市・向日市地域の事例

福永2005より引用



⇓ ④長岡へと変遷

①向日 ⇓ ②長岡 ⇓ ③榎原・山田

首長系譜の継続と断絶の意味

- ◆ひとつの郡に2～3つの首長系譜がある
- ◆この2～3つの首長系譜を統括する＝盟主的首長
- ◆盟主的首長＝地域の最大の古墳を築造

◆盟主的古墳を出すグループが移動する時期は

①中期初め、②中期後葉、③後期前葉

※全国と連動した現象

◆全国レベルの政治変動の背景

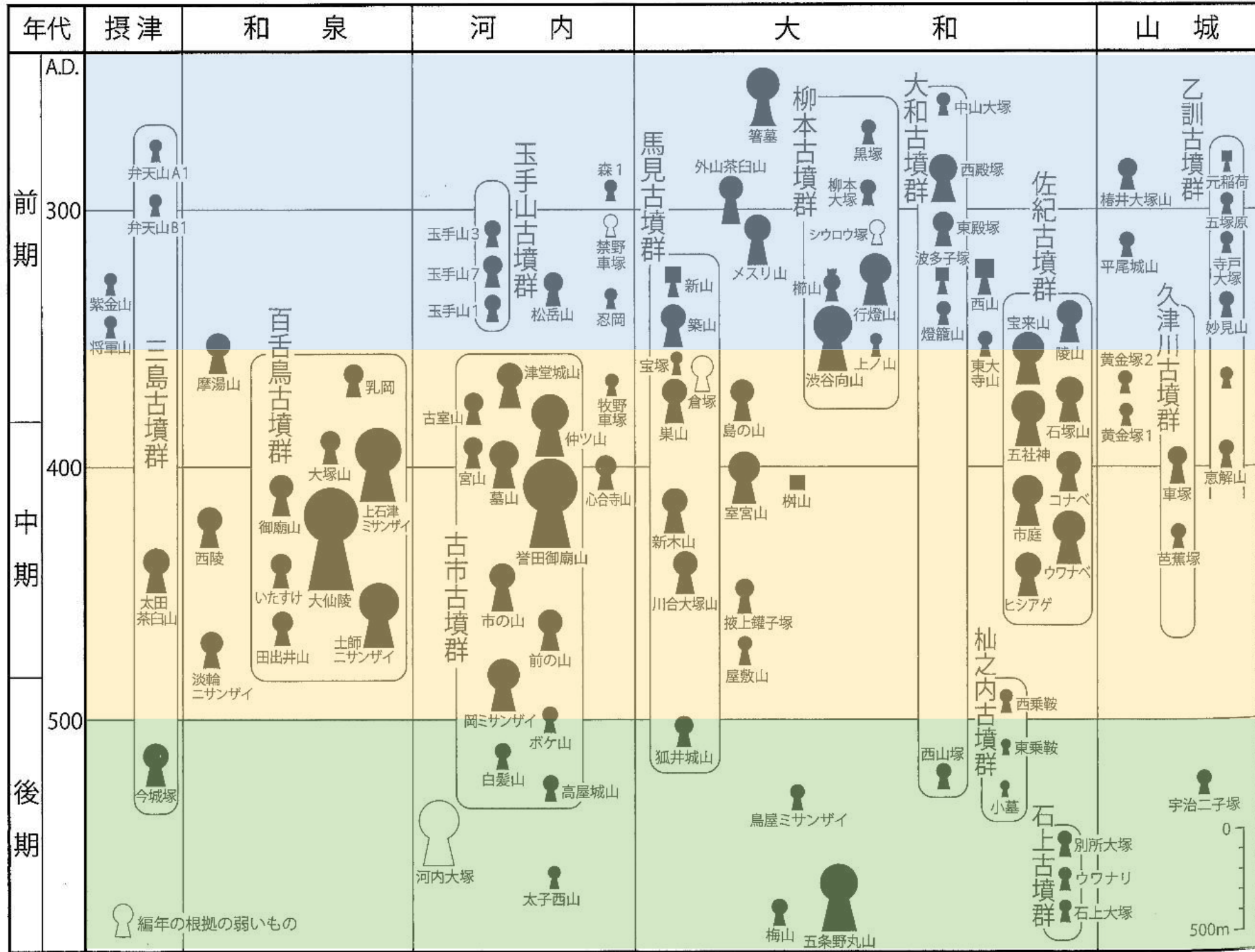
⇒大王権力周辺の政治的变化と連動

◆①中期初め ⇒百舌鳥・古市古墳群の形成と関係

②中期後葉 ⇒雄略大王期の政治と連動か

③後期前葉 ⇒継体大王期の政治と連動か

畿内の大型古墳群変遷



近つ飛鳥博物館2013より

殿塚古墳
前方後円墳
中期初め

92m



写真は名張市教育委員会提供

女良塚古墳

帆立貝式

中期前葉

100m



写真は名張市2010より引用

帆立貝式古墳のもつ意味

◆小野山節の説（小野山1970）

⇒ヤマト王権の強い時期には、
王権による政治的規制によって
各地の首長が前方後円墳を築けなかった

◆前方部が短い

⇒前方後円墳よりも格が落ちるのか？

※**殿塚古墳より女良塚古墳のほうが大きい**

例えるなら、江戸時代の天守閣を持たない城のよう

◆伊達藩の仙台城

外様大名だが、石高は62万石

仙台城には天守がもともと無い

⇒権力の象徴である天守は幕府に睨まれるから

◆帆立貝式＝前方後円墳ではないことをアピール

毘沙門塚古墳

前方後円墳？

※前方部が低い

65m

中期中葉



写真は名張市教育委員会提供

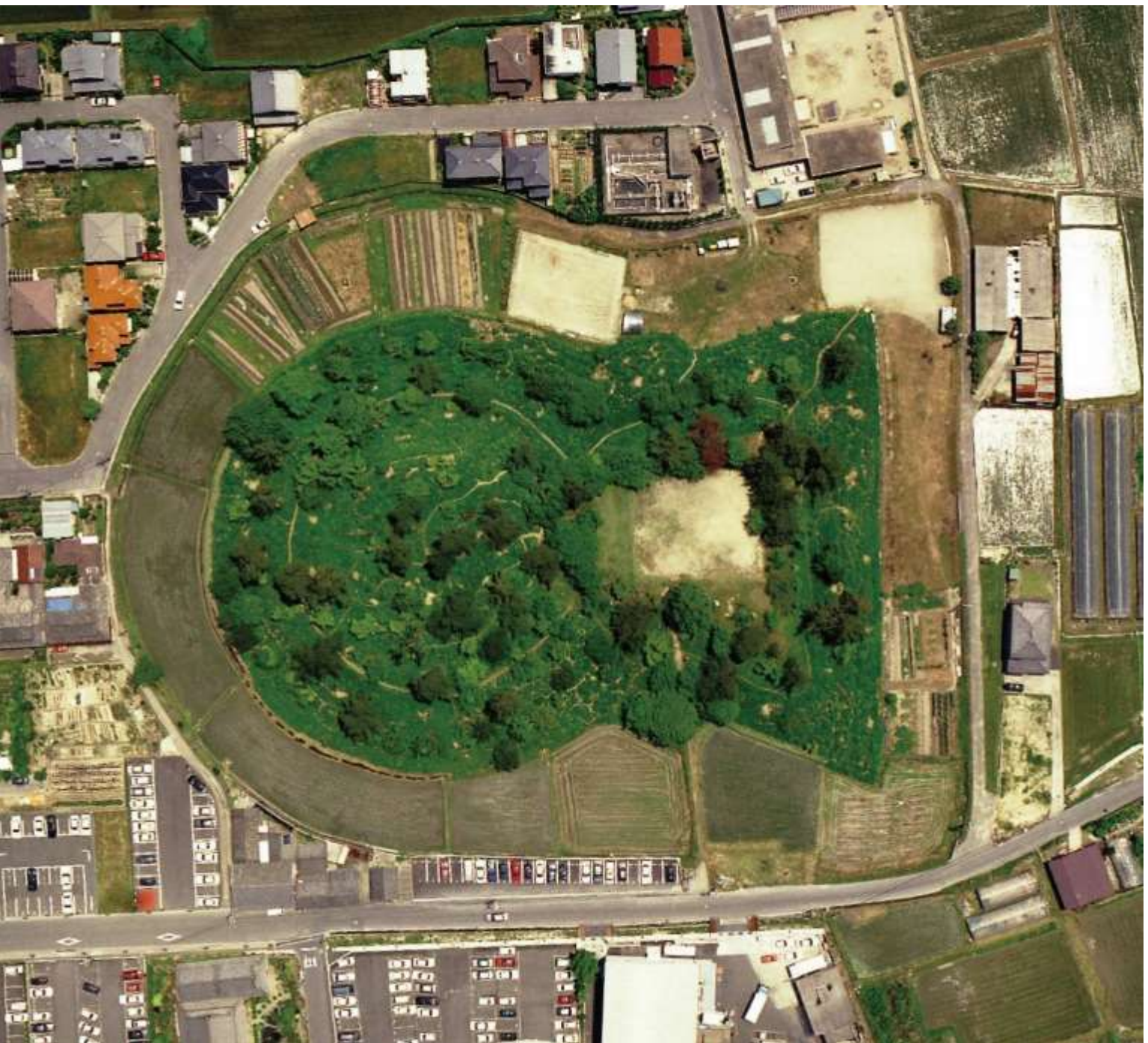
馬塚古墳

前方後円墳？

※前方部が低い

142m

中期後葉



写真は名張市教育委員会提供

貴人塚古墳
前方後円墳
後期前葉

55m



写真は名張市教育委員会提供

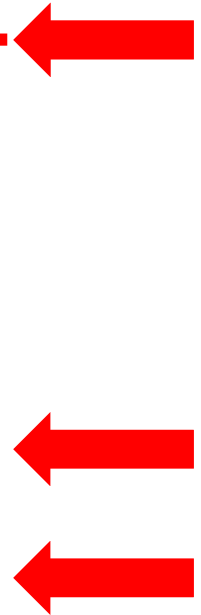
伊賀の古墳編年図

	阿 拜 地 域 (柘植川流域)	山 田 地 域 (服部川流域)	伊賀地域(長田川流域)			名 張 地 域 (名張川流域)
			上 流 域	比自岐川流域	中 流 域	
1 期						
2 期						
3 期	山神寄建神社 ●50	寺垣内●75				
4 期		荒木車塚●93		石山●120		
			殿塚●88			
5 期	御墓山●188		女良塚●100			
6 期			毘沙門塚●65			
7 期	鷺棚1号 ●59	寺音寺 ●60	近代 ●30	王塚 ●48		
8 期	外山1号 ●64 外山3号 ●45		馬塚●141		ぬか塚●37	
9 期	鷺棚2号 ●42 吉良土 ●50	新堂 ●40	鳴塚●37	貴人塚●55		琴平山●57
10 期	宮山1号●42 チヨ口塚●25?		赤井塚			鹿高神社1号●42 春日宮山●34

●前方後円墳

矢印部に線をひくか

山本1992をもとに一部改変



赤井塚古墳
円墳 22m以上
後期後葉



写真は名張市教育委員会提供

畿内型横穴式石室の
典型



写真は名張市教育委員会提供

ヤマト王権への配慮がみられる

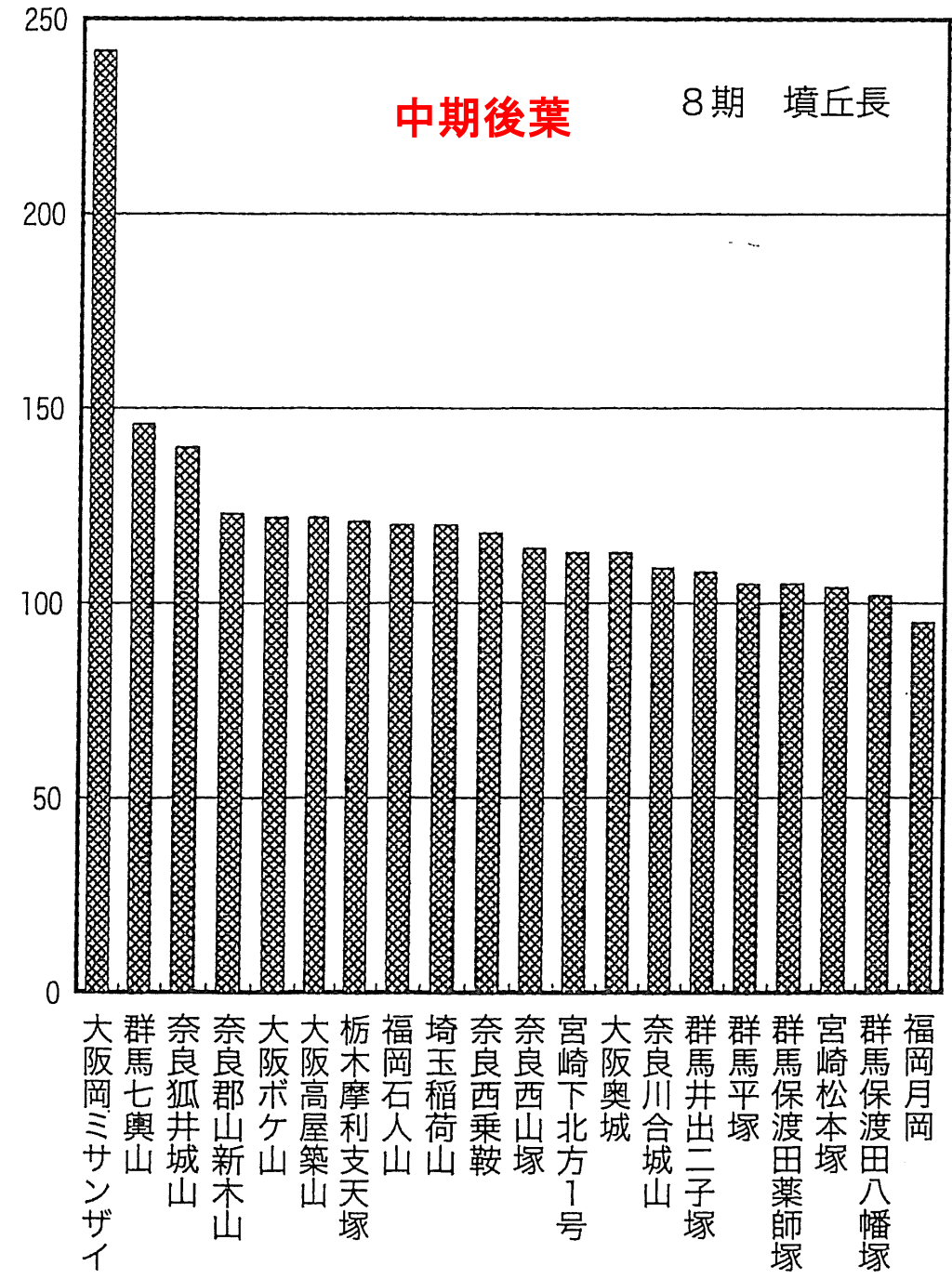
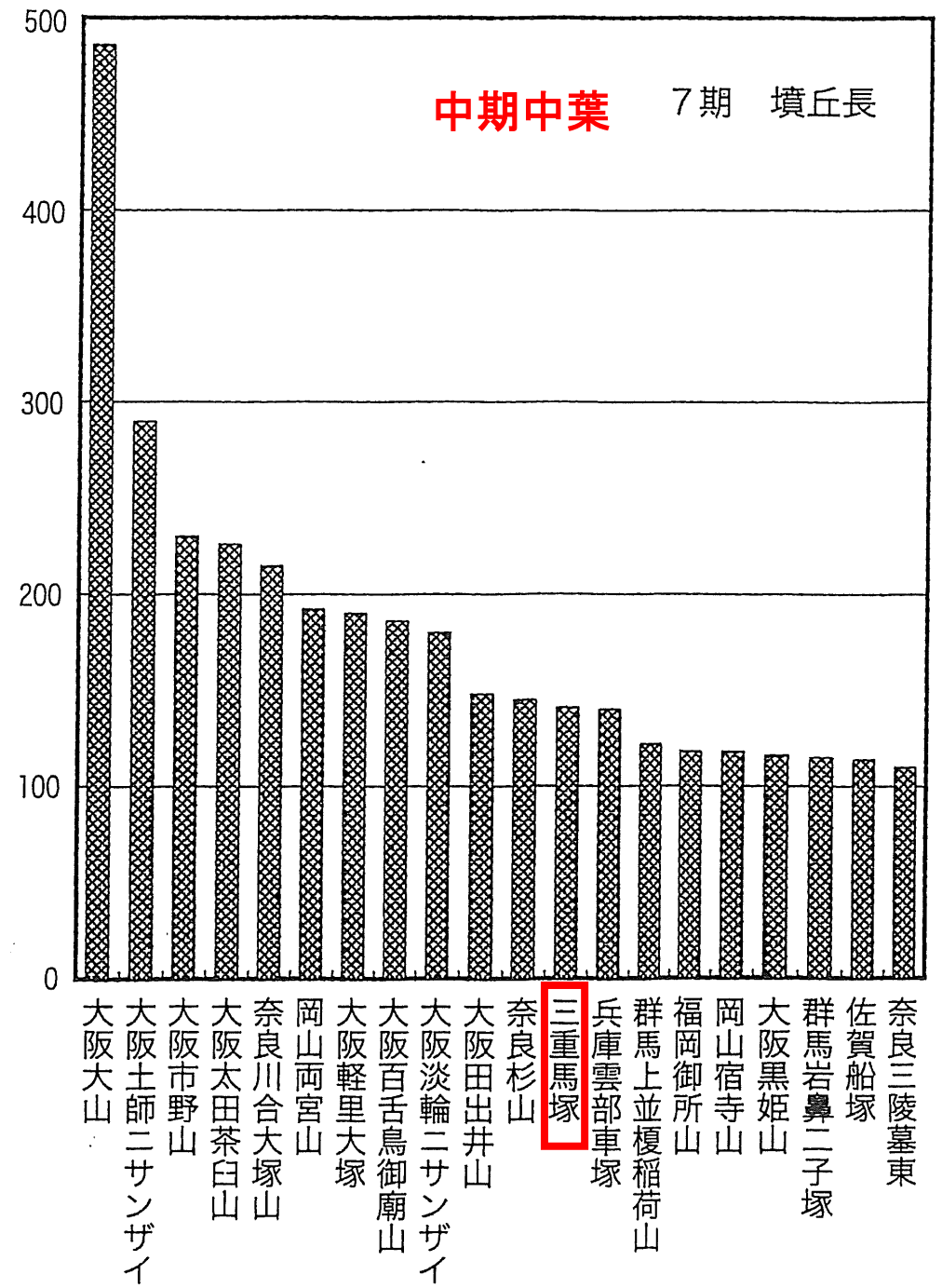
◆したたかさが必要

◆特に雄略大王者は薄氷を踏む思いだったか

雄略大王の時代

- ◆大首長を滅ぼす
⇒葛城氏、吉備氏など
- ◆墳長30m程度の古墳において
甲冑を出土する古墳が増える
⇒中小首長を採用
- ◆少数の大首長 ⇒ 多くの中小首長の把握へ

大王のみが隔絶した存在

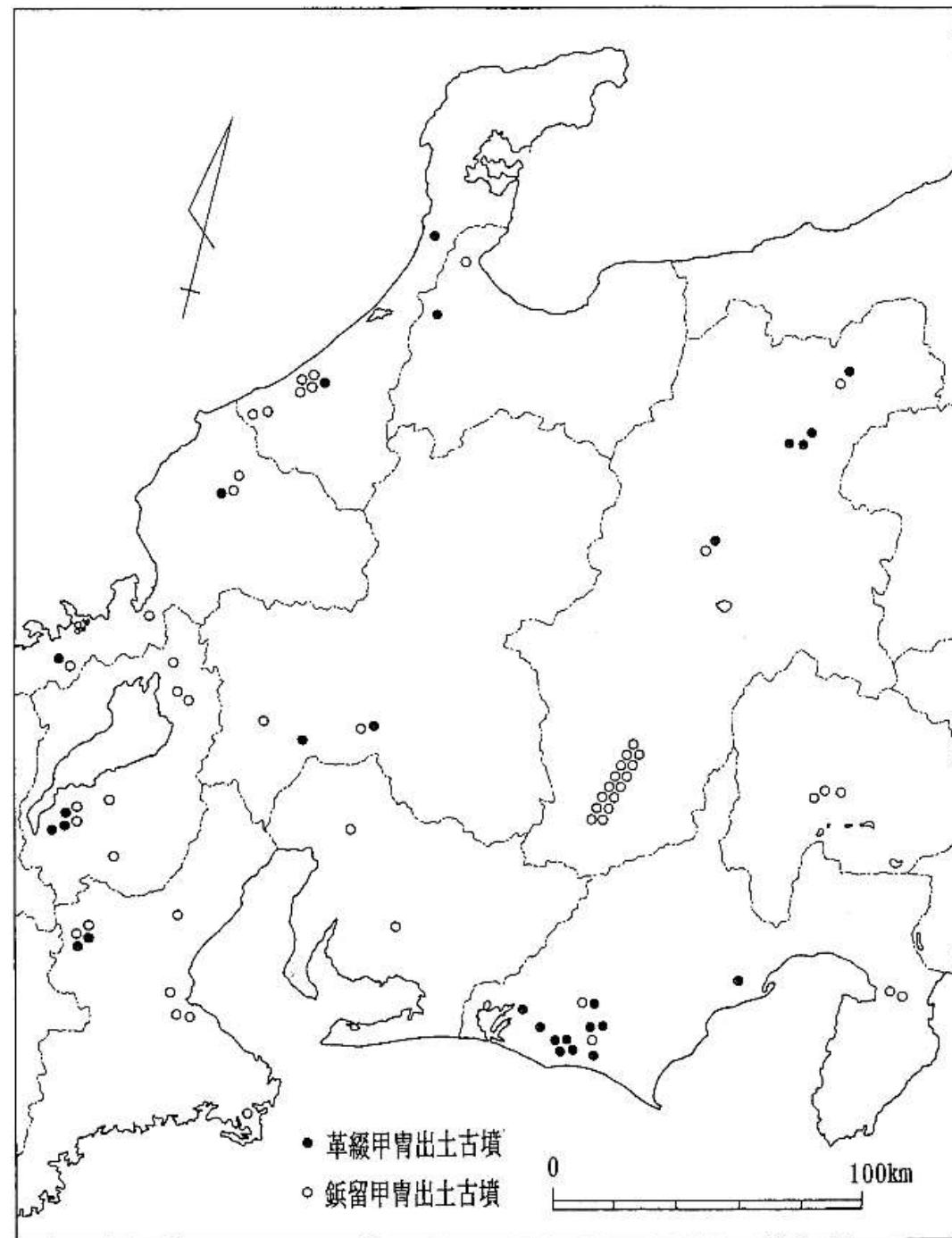


福永2011を引用

甲冑を出土する中小古墳

- ◆香川県、宮崎県、長野県
などに多くみられる
- ◆美旗古墳群周辺では
わき塚1号墳（22m）、
近代古墳（30m）、
カブト塚古墳（規模不明）

鈴木2005を引用



写真を企画展示室にて展示



左右
わき塚1号墳
近代古墳

美旗古墳群は、ヤマト王権の東の要

- ◆大首長の解体への動きは、美旗古墳群でもみられた
⇒なんとか踏みとどまったか
- ◆王権への配慮
⇒絶妙な気配り

後期初めの変化～継体大王の時代～

- ◆ **継体大王** = 応神大王の5世孫という
⇒ 近江・越前で育つ
- ◆ 大王位に就いた後
⇒ 淀川流域に宮を構える（20数年後、大和に）
- ◆ 百舌鳥・古市古墳群の終焉

名張でも首長系譜の断絶がみられるか

美旗古墳群

⇒ 貴人塚古墳（墳長
55mの前方後円墳）

名張郡

⇒ **琴平山古墳**（墳長
70mの前方後円墳）

写真は現地にて撮影



丸尾山古墳出土の馬具



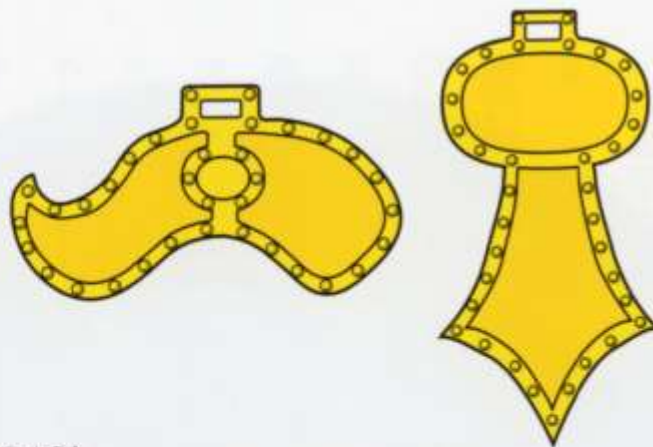
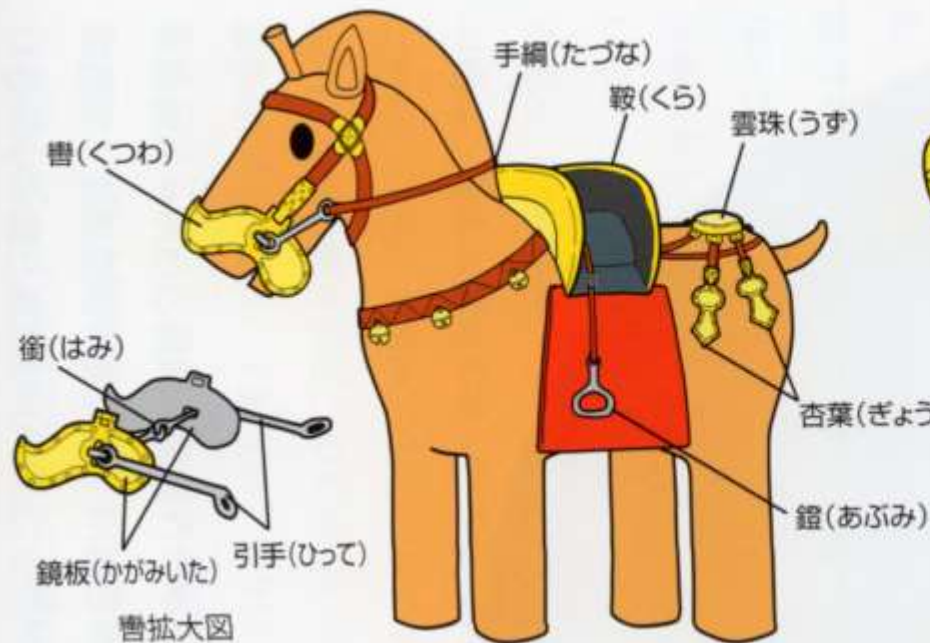
◆後期初めの轡

◆十字文楕円形鏡板付轡

↓継体大王期の政治的

動向を反映か

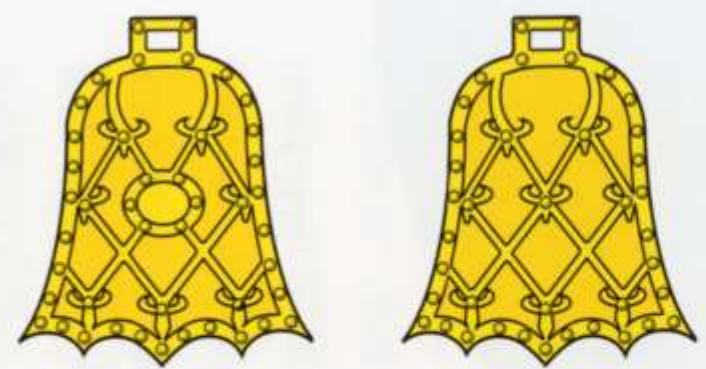
企画展示室で展示中



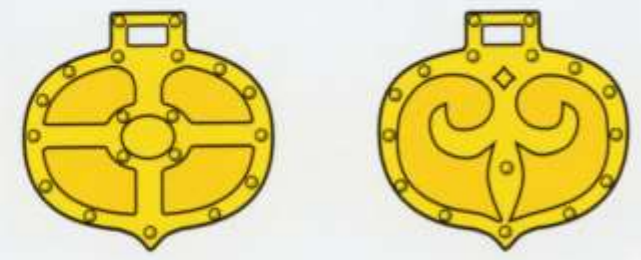
f字形鏡板付轡と剣菱形杏葉
(5世紀後半～6世紀前半)



十字文楕円形鏡板付轡と三葉文楕円形杏葉
(6世紀前半)



鐘形鏡板付轡と鐘形杏葉
(6世紀)



十字文心葉形鏡板付轡と三葉文心葉形杏葉
(6世紀後半)

轡と杏葉は、時期ごとに大きく変わります。
特定のセットがあることも特徴です。

十字文心葉形鏡板付轡と三葉文心葉形杏葉
(6世紀後半)

尻矢2号墳の鏡



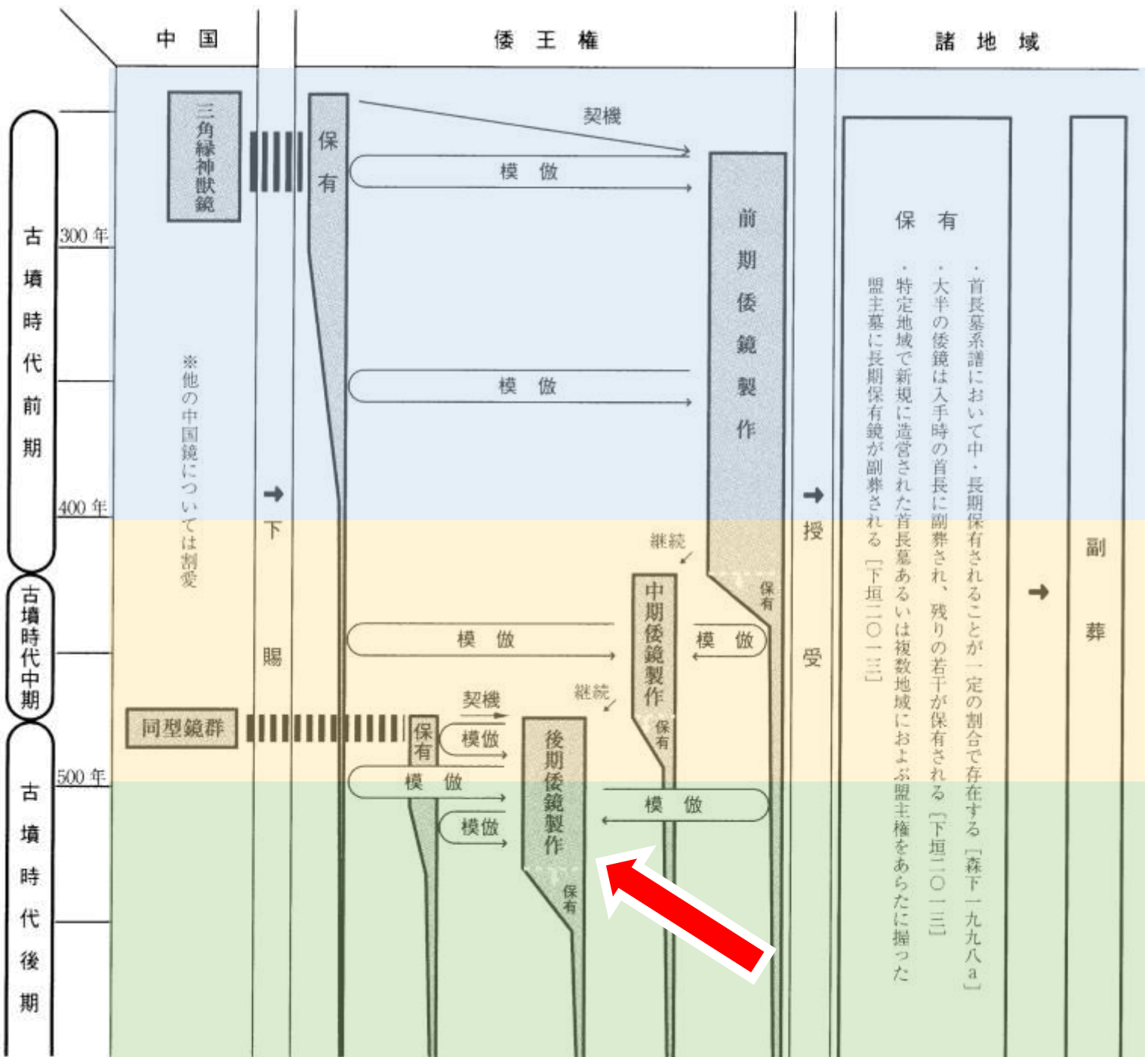
◆前兆は中期後葉に

(雄略大王の時代の鏡か)

◆乳を持たない鏡 (倭鏡)

展示室2にて展示

中期後葉から鏡生産が 再びさかんに



継体大王より前の
雄略大王の時代に配布された
品か

加藤2020より引用

琴平山古墳の出土品



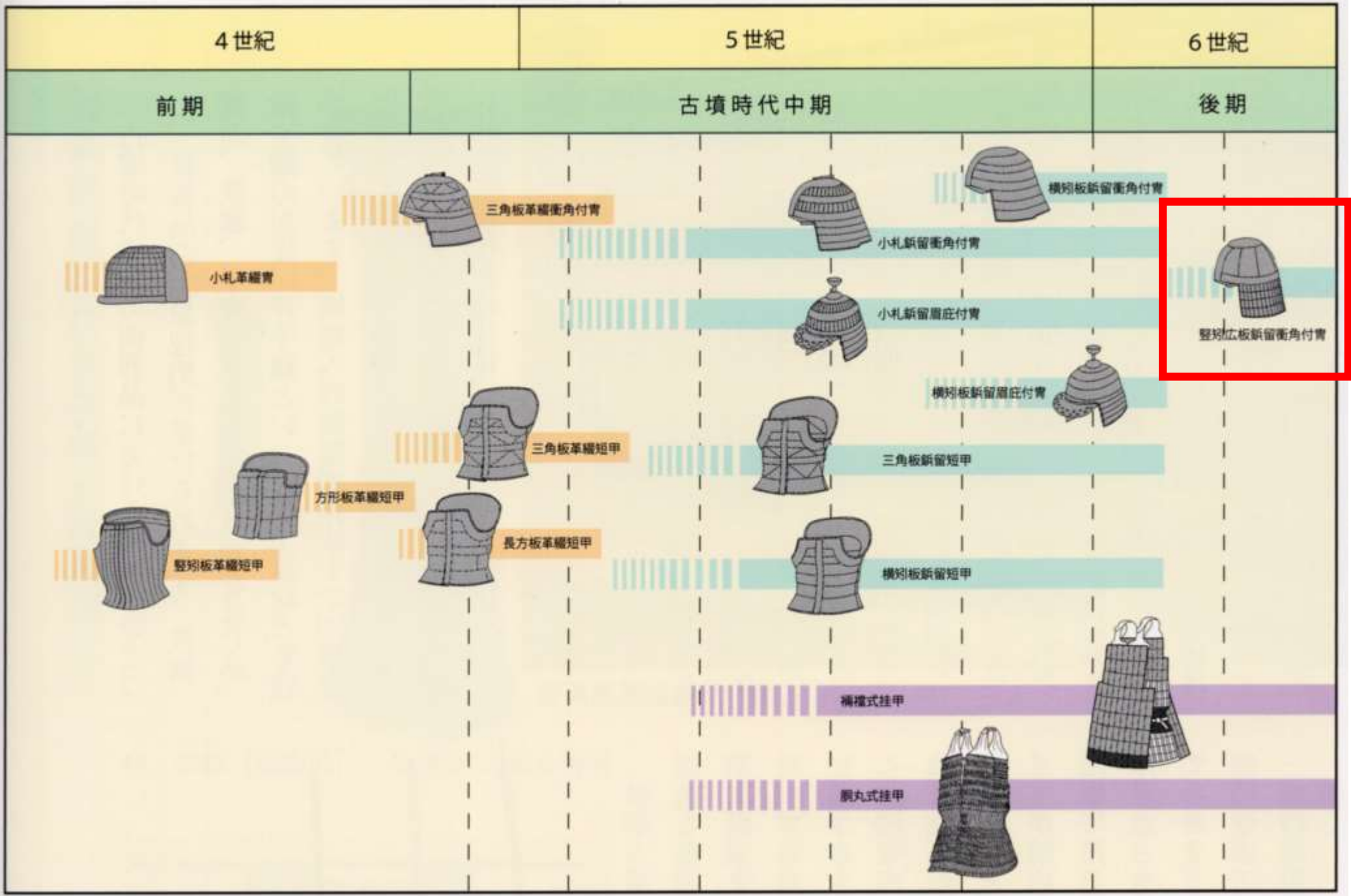
◆ 豎矧広板鋳留衝角付冑

◆ 陶質土器

↓ 渡来系集団を

傘下におさめるか？

展示室2にて展示



矧矧板新留衝角付胄

韓式系土器の
一種である
陶質土器



企画展示室にて展示中

韓式系土器（陶質土器と軟質土器）

陶質土器と須恵器

⇒ 5世紀に日本に渡ってきた 須恵器へ

⇒ 5世紀に日本では定着しなかったもの 陶質土器

軟質土器と土師器

⇒ 5世紀に日本に渡ってきた 土師器の一種へ

⇒ 5世紀に日本では定着しなかったもの 軟質土器

韓式系土器の一種
把手付鉢



根冷4号墳出土品

企画展示室にて展示中

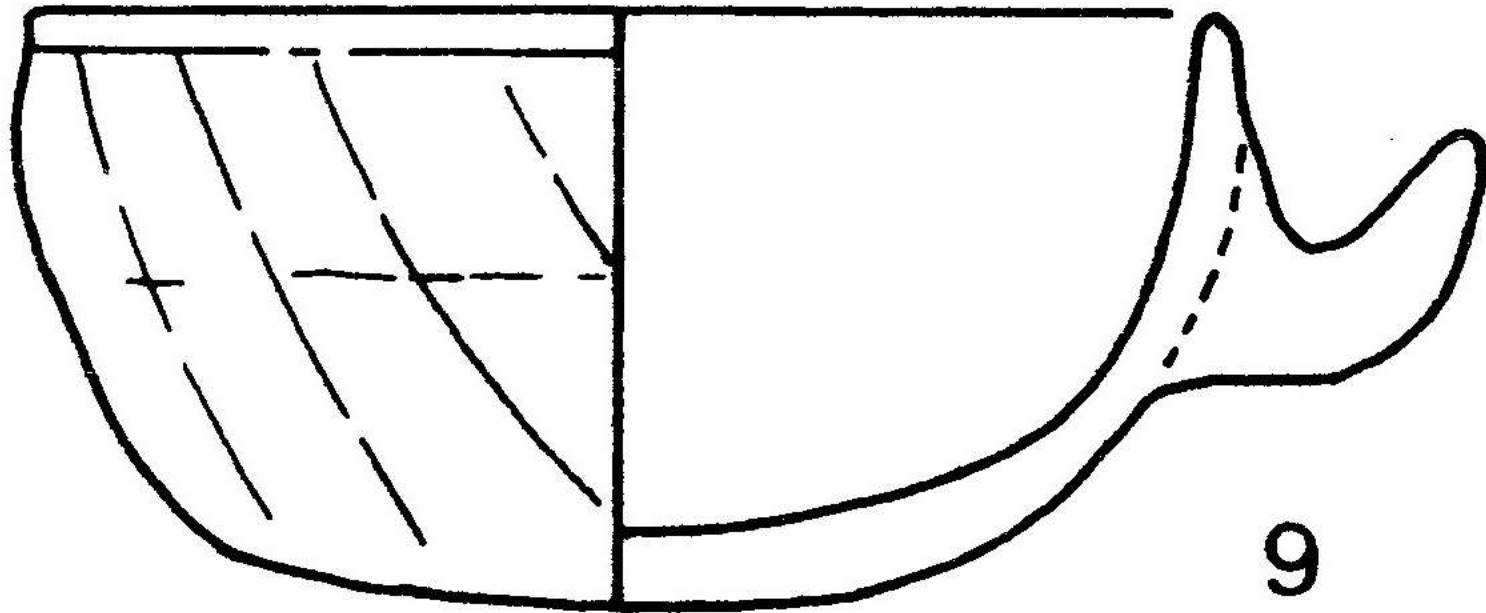
参考として
鈴台小壺



根冷4号墳出土品

企画展示室にて展示中

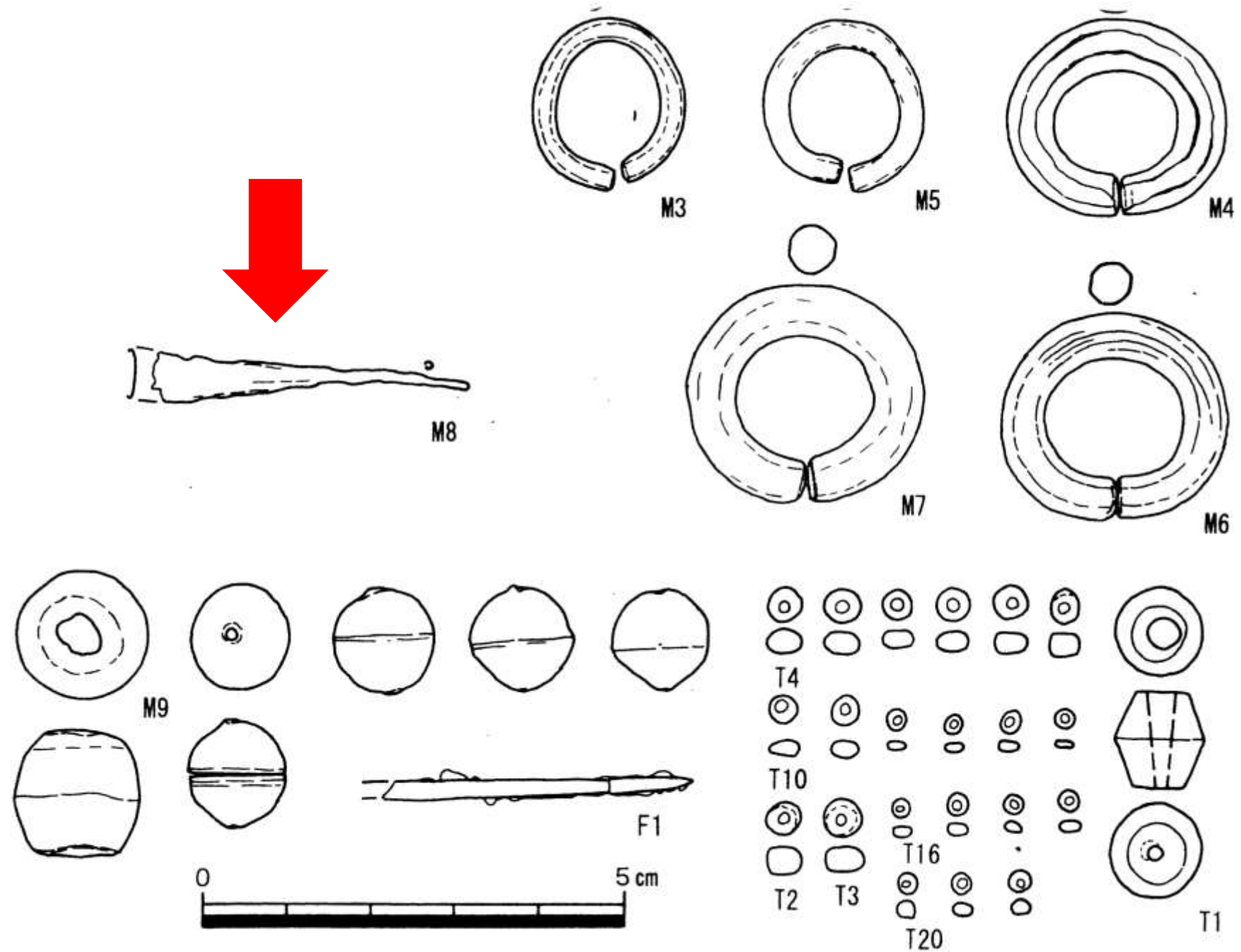
尻矢 4 号墳と中村 1 0 号墳からも 把手付鉢が出土



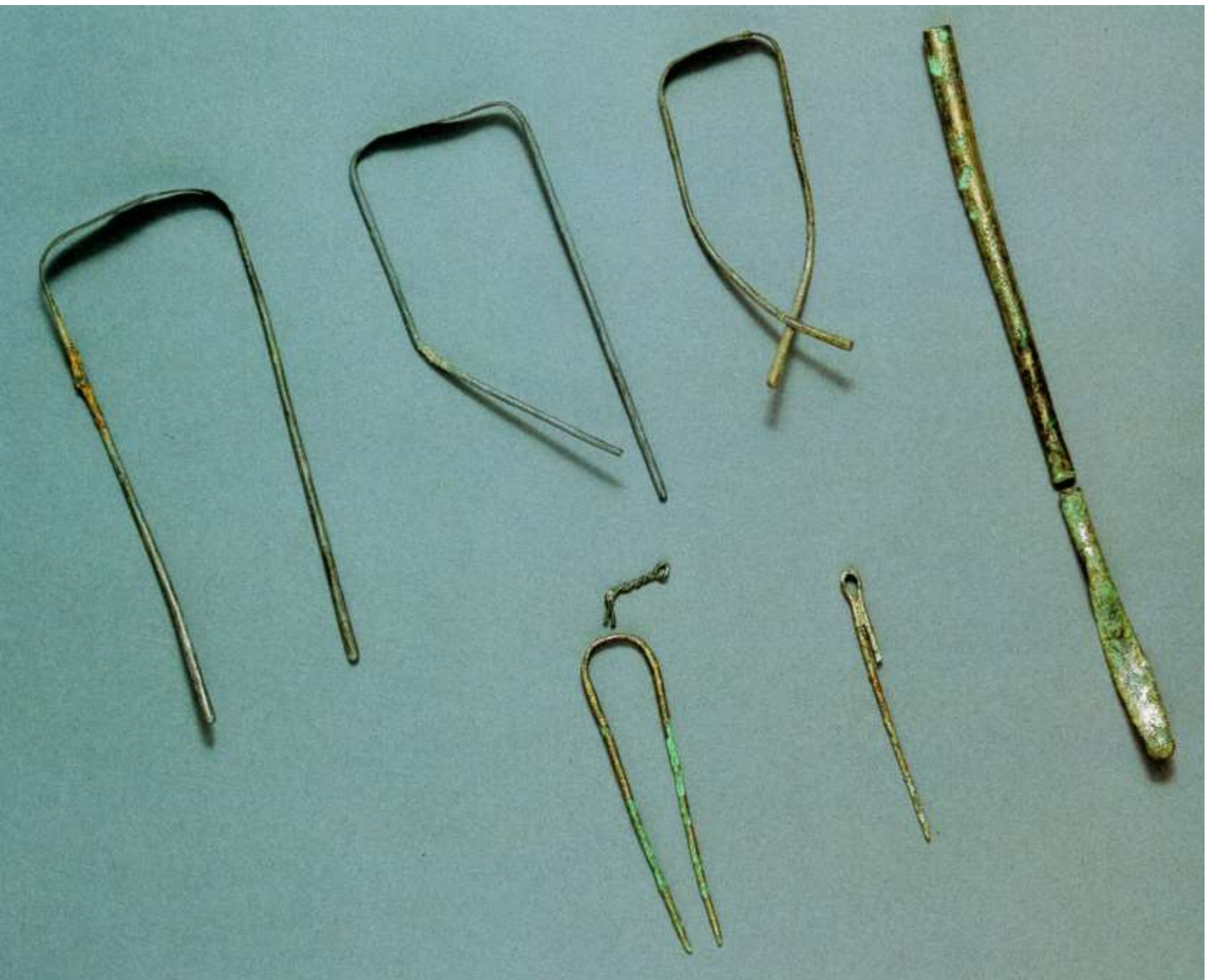
図は尻矢 4 号墳出土品（名張市遺跡調査会 1 9 9 5 より引用）

尻矢1号墳のかんざし

引用 図は名張市遺跡調査会1995より



大阪府一須賀古墳群の例



近つ飛鳥博物館2005より引用

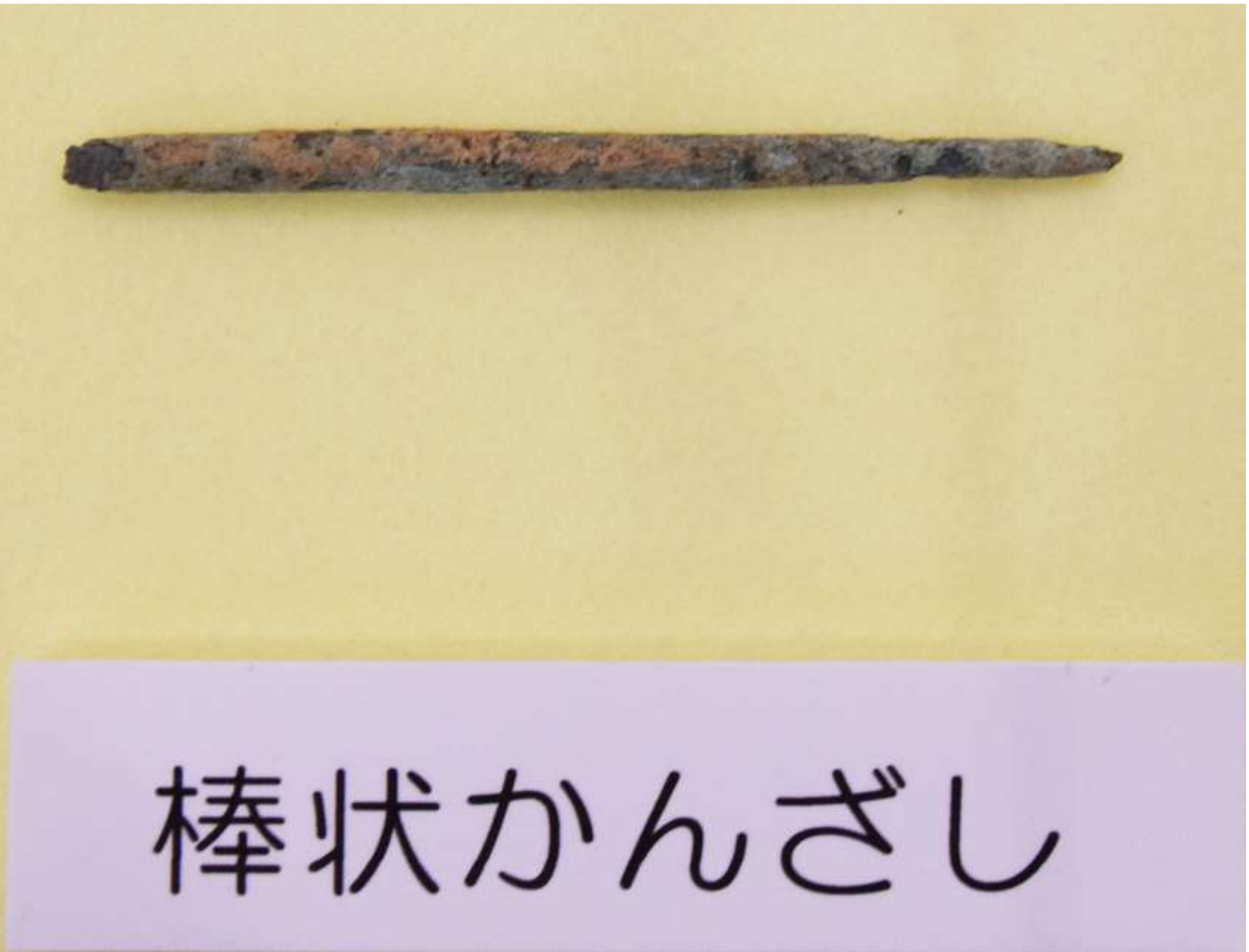
滋賀県大津市の例



大津市歴史博物館2016

5-4. 大谷遺跡B号墳 金銅製釵子と釧

上山7号墳のかんざし



展示室2にて展示

上山9号墳の釧



展示室2にて展示

上山 9 号墳の花形飾り



展示室 2 にて展示

類例 その1



羽曳野市教育委員会編1993、
羽曳野市教育委員会2002より



布にとりつけた
スパンコールのような
飾り



羽曳野市教育委員会2002より

類例 その2
一須賀D4号墳



釵子・飾金具出土状況

近つ飛鳥博物館2003より



釵子

右端 長さ21.3cm



2005より
2003、小浜
近つ飛鳥博物館

かんざしの飾りとする説

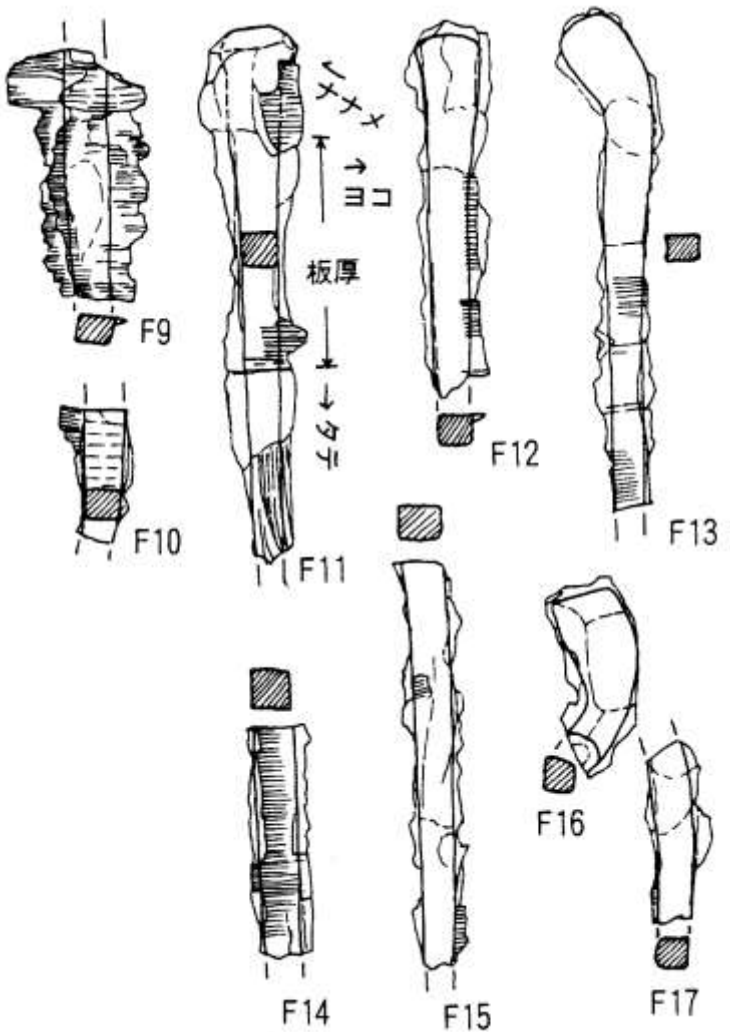
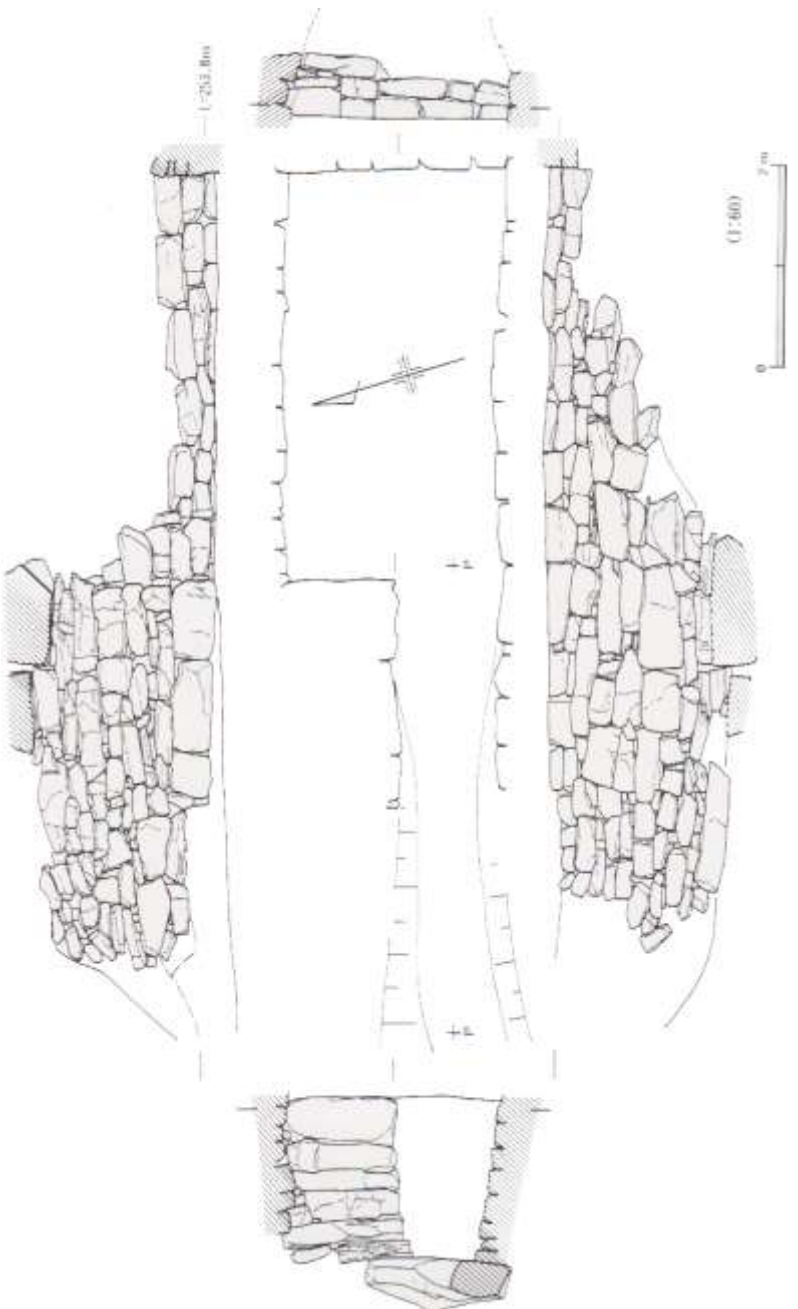
丸尾山古墳の石室と棺



石室の上半部はドーム状に
復元できる

展示室2にて展示の写真

丸尾山古墳の 石室図と釘の図



名張市遺跡調査会 1999より

名張市の 渡来系遺物

◆特定の地域に集中
⇒琴平山古墳から
夏見廃寺あたりに
集中

名張市教育委員会1988を元
に一部改変



渡来系氏族の名前は？

- ◆特定の渡来系遺物を持つ場合
⇒氏族の名前をある程度しぼることができる
- ◆特定の渡来系遺物とは
かんざし、ミニチュアかまど、ドーム状天井の石室

東漢氏と秦氏

◆自己主張の強い東漢氏

⇒かんざし、ミニチュアかまど、ドーム状天井の石室

◆ひかえめな秦氏

⇒出土品からの特定が難しい

東漢氏とは その1

- ◆80以上の氏族で構成される
- ◆16国、50郡以上に居住⇒大半が畿内（5国、26郡）
- ◆本拠地は、奈良県高市郡
（現在の明日香村の南隣の高取町）
- ◆有名な人物＝坂上田村麻呂

東漢氏とは その2

◆軍事氏族

◆政治権力の中枢と結びつくことが多い

◆蘇我氏と東漢氏の関係が親密

→東漢直駒（崇峻天皇を殺害）

→乙巳の変では蘇我蝦夷のために軍陣を設ける

参考 秦氏とは

- ◆名前は、機織に由来するとの説がある
- ◆34国、89郡以上に居住
- ◆数は、膨大（欽明期の戸籍で7053戸とも）
⇒古代史上で現れる人名のうち最多
- ◆政界で高い地位を占めていない
⇒非貴族的・非官僚的
- ◆聖徳太子と秦河勝のつながり

東漢氏の一族に夏見氏

三腹	氏	姓
兄腹	〔1〕民忌寸、〔2〕檜原宿禰、〔3〕平田宿禰、〔4〕平田忌寸、〔5〕栗村忌寸、〔6〕小谷忌寸、〔7〕伊勢国奄芸郡の民忌寸、〔8〕軽忌寸、〔9〕夏身忌寸、〔10〕韓国忌寸、〔11〕新家忌寸、〔12〕門忌寸、〔13〕蓼原忌寸、〔14〕高田忌寸、〔15〕国覓忌寸(陸奥国新田郡)、〔16〕田井忌寸、〔17〕狩忌寸、〔18〕東文部忌寸、〔19〕長尾忌寸、〔20〕檜前直(大和国葛上郡)、〔21〕谷宿禰、〔22〕文部谷忌寸、〔23〕文部岡忌寸、〔24〕路忌寸、〔25〕路宿禰	
弟腹	〔26〕山口宿禰、〔27〕文山口忌寸、〔28〕桜井宿禰、〔29〕調忌寸、〔30〕谷忌寸、〔31〕文宿禰、〔32〕文忌寸、〔33〕大和国吉野郡の文忌寸、〔34〕紀伊国伊都郡の文忌寸、〔35〕文池辺忌寸	
中腹	〔36〕田部忌寸、〔37〕黒丸直、〔38〕於忌寸、〔39〕鳥門忌寸、〔40〕呉原忌寸、〔41〕斯佐直、〔42〕石占忌寸、〔43〕国覓忌寸、〔44〕井上忌寸、〔45〕石村忌寸、〔46〕林忌寸、〔47〕郡忌寸、〔48〕櫻井忌寸(大和国吉野郡)、〔49〕河原忌寸、〔50〕忍坂忌寸(大和、河内等国)、〔51〕与努忌寸、〔52〕波多忌寸、〔53〕長尾忌寸、〔54〕畝火宿禰、〔55〕荒田井忌寸、〔56〕藏垣忌寸、〔57〕酒人忌寸、〔58〕白石忌寸、〔59〕大和国高市郡の坂上直、〔60〕蚊屋宿禰、〔61〕蚊屋忌寸、〔62〕参河国の坂上忌寸、〔63〕坂上大宿禰	

氏

姓

宿禰、〔3〕平田宿禰、〔4〕平田忌寸、〔5〕栗村
 寸、〔8〕軽忌寸、〔9〕夏身忌寸、〔10〕韓国忌寸、
 〔14〕高田忌寸、〔15〕国覓忌寸(陸奥国新田郡)、〔16〕
 〔長尾忌寸、〔20〕檜前直(大和国葛上郡)、〔21〕谷

加藤 1991より引用

東漢氏系の夏見氏の可能性がある

◆夏見金村

⇒伊賀国名張郡主帳、外少初位勲十二等とみえる
(天平3年伊賀国正税帳断簡)

古墳時代後期の渡来人政策

- ◆ ヤマト王権がいったん把握し、
その後、**特定の地に移住させる政策**
⇒ 代表例が近江、播磨
⇒ 名張もそのひとつ
- ◆ 一定数の渡来人が移住
⇒ 名張の開発

参考 夏見廃寺には 関わっていない？

◆渡来系氏族の寺院では、
特徴的な瓦（**輻線文縁軒丸瓦**）を
使う
⇒夏見廃寺では確認されていない

右の図は渡来系氏族の寺院で確認される瓦
（小笠原1997より引用）

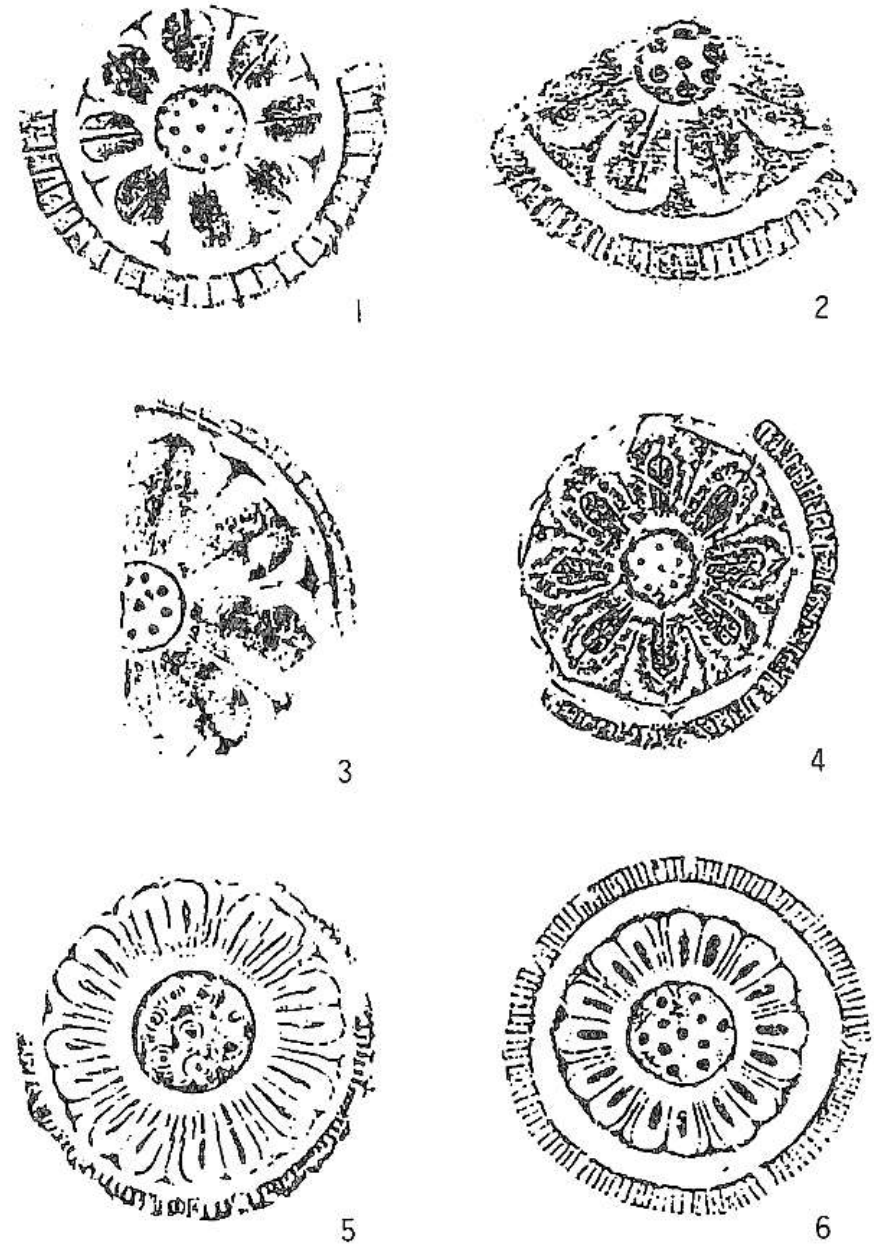


図4 輻線文縁軒丸瓦

1 穴太廃寺, 2 手原廃寺, 3 宝光寺跡, 4 安養寺廃寺, 5 下岡部廃寺, 6 崇福寺跡

後期におけるヤマト王権と名張

- ◆ 琴平山古墳にねむる人物は、渡来人か、在来の人か
 - ⇒ 不明
 - ⇒ 今後の調査進展に期待か
- ◆ 渡来人の移住政策
 - ⇒ ヤマト王権による「人・土地の直接把握」政策
 - ※ 土地の直接把握としては**最新の政策**を反映

まとめ

◆ヤマト王権

⇒東の要である名張を重視

◆渡来人の移住政策

⇒名張の開発

⇒土地の直接把握もめざしたか

参考文献

- 井上光貞1986「雄略朝における王権と東アジア」『井上光貞著作集』第5巻 岩波書店
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2005『一須賀古墳群の調査』V
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2010『継体大王の時代』
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2013『考古学からみた日本の古代国家と古代文化』
- 大津市歴史博物館2016『渡来した人々の足跡』
- 大津透1993「近江と古代国家」『律令国家支配構造の研究』岩波書店
- 小笠原好彦1997「近江の渡来系氏族の古墳と軒瓦」『季刊考古学』第60号 雄山閣

小野山節1970「5世紀における古墳の規制」『考古学研究』第16巻
第3号 考古学研究会

加藤一郎2020「後期倭鏡の生産体制」『古墳時代後期倭鏡館考』六
一書房

加藤謙吉1991「東漢氏の氏族組織の成立」『大和政権と古代氏
族』吉川弘文館

小浜成2005「一須賀D4号墳の釵子」『館報』9 大阪府立近つ
飛鳥博物館

鈴木一有2005「東海の甲冑出土古墳にみる古墳時代中期の変革過
程」『天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告』VI 三重県埋蔵文化
財センター

都出比呂志1988「古墳時代首長系譜の継続と断絶」『待兼山論
叢』第22号 大阪大学文学会

都出比呂志1989「古墳時代の中央と地方」『古代史復元6 古墳
時代の王と民衆』講談社

名張市2010『名張市史』資料編考古

名張市遺跡調査会1994『男山古墳群 上山古墳群』

名張市遺跡調査会1995『尻矢古墳群』

名張市遺跡調査会1999『横山古墳群』

名張市教育委員会1988『夏見廃寺』

羽曳野市教育委員会編1993『河内古市古墳群峯ヶ塚古墳概報』吉
川弘文館

羽曳野市教育委員会2002『史跡古市古墳群 峯ヶ塚古墳後円部発掘調査報告書』

福永伸哉2005「古墳時代の首長系譜変動と墳墓要素の変化」『三角縁神獣鏡の研究』大阪大学出版会

福永伸哉2011「古墳時代政権交替と畿内の地域関係」『古墳時代政権交替論の考古学的再検討』大阪大学大学院文学研究科

三重県埋蔵文化財センター2015『東条1号墳・屋敷の下遺跡』

山本雅靖1992「伊賀」『前方後円墳集成』中部編 山川出版社

和田晴吾1994「古墳築造の諸段階と政治的階層構成」『ヤマト王権と交流の諸相』古代王権と交流5 名著出版

和田晴吾1992「群集墳と終末期古墳」『新版古代の日本』第5巻 近畿Ⅰ 角川書店